



クストイゲ (能古島)

能古島の樹木

樹木医 前田幸浩

◆はじめにー島を訪ねるわけ

はじめに個人的なことから書かせていただきます。私は七年前、公園や街路の樹木管理を中心業務とする造園会社勤めていたときに樹木医の資格を取得しました。その後退職し、フリーの樹木医として過ごし始めて三目を迎えています。

造園業界の一員として働いていた間、私はもっぱら公園や街路といった非自然系の緑地でおなじみの、いわゆる「緑化樹木」ないしは「植木」「庭木」と呼ばれる樹木を相手にしてきました。ですから、その業界を離れ自然系緑地の野山の樹木をも相手にするようになった時、ある戸惑いをおぼえました。野山へ入ってみると、そこそこにある木が何の木であるのか、まるで分からなかったのです。そもそ

も野山には、公園や街路では見かけない樹木が数多いこともさることながら、森の中ではタブノキやマテバシイなどは、それまでも公園などで馴れ親しんできたはずの樹木たちでさえ、まるで「別人」のような姿かたちをしてたらずんでいるのです。私には「彼女」「彼女」らが「誰」であるのか瞬時には分かりませんでした。

私はそれまで造園業界の誰もが行なうように、葉や樹形からその木の種名を判断していました。公園や街路ではたいていの木は手を伸ばせば届く高さに葉をつけています。届かないにしろ、目視で十分葉の特徴は観察できました。また、周辺の建物との関係によって極端に樹冠の生育が制限された場合や、著しい不良剪定を被った場合などを除けば、木々は基本的にはその種固有の樹形を展開できるよう

能古博物館だより

植栽されています。遠目にはこの樹形などでおおよその見当をつけ、精密には葉をじかに観察して種名を同定する。それでたいの樹木の名前は判断できていました。

ところが野山では、高木ともなるとその葉は高嶺の花ならぬ「高嶺の葉」、手が届かないのはもとより、不慣れな者には双眼鏡を以ってしても特徴がつかめないほど高所に位置しています。これは上層植生を形成する高木同士がひしめき合いながら、日照を奪い合ううちにどんどん樹高を上げ、反面、日照の不足しがちな下方枝は次第に自己剪定され、枝下高が増して行くためです。その結果、孤立木などを除く野山の樹木の樹形は、日照をめぐるそうした競合が比較的少ない公園街路の木々のそれとは似ても似つかないものとなります。こうして葉と樹形という手掛かりをつかめない私は、木の名前が分からない樹木医として山中ひとり

り狼狽したのです。

では中低木は大丈夫か、というところ、これらもまた「別人」として立ち現れてくるのでした。ヒサカキやネズミモチなどが、私が見慣れている形、大ききからまつたくかけ離れているのです。ある時はひろひよろとしたモヤシのようであり、ある時は驚愕するほど逞しい姿で立ちはだかつてみたり。刈込みばさみで手入れをされた公園街路のそれは、まるで違っていました。さらにはこうした中下層を形成する植生の中に、高木の幼木が混在していることも、私には盲点でした。一般的に、公園街路の建設維持管理に携わる造園業者が、樹高4m以下の高木を扱うことは極めて稀です。どんな高木にも樹高数十cmあるいは数cmという時期がある。ということは頭では理解できても、現実には樹高三〇cmのエノキを目の前にすると、それがエノキであることが、にわかには認知できない

能古博物館協賛会・友の会

(敬称略・順不同)

〔法人協賛会員〕

- 浄土真宗本願寺派 浄満寺
- (医)原土井病院
- ワタキユーセイモア(株)
- (株)福岡メテイカル
- リース
- (株)アールアンドエム
- (株)クリニカルデータ
- サービス
- 福岡桜坂郵便局
- 鬼敷信孝
- 福岡赤坂郵便局
- 戸田正義
- 日清医療食品(株)
- 福岡支店
- (株)福岡経営管理センター
- (株)サンコー
- (医)恵光会原病院
- (株)西日本シティ銀行
- 和白支店
- (株)西日本シティ銀行
- 千代町支店
- (株)西日本シティ銀行
- 香椎支店
- (株)西日本シティ銀行
- 土井支店
- 福岡流通センター支店
- (株)西日本シティ銀行
- 新宮支店
- (株)西日本シティ銀行
- 箱崎支店
- (株)西日本シティ銀行
- 久山支店
- (有)サンネット
- (医)笠松会有吉病院
- (有)ウエダ建築社
- 九州防災工業(株)
- (有)西部エレベーター
- サービス
- (有)豊友設備
- 総合産業(有)
- 総合トラスト
- (株)ニッコトラス
- (株)メイデック
- ダイアド(株)
- (株)ホスビカ
- ギヤラリー倉
- (医)大兼会福岡原リハビリテーション病院
- (医)江頭会さくら病院
- (株)二子口九州支社
- 宗教法入善隣教
- (株)リコ商会
- (株)橋本組
- 下山工業(株)
- 学校法人原学園
- (協)唐人町プラザ
- 甘棠館
- 大和産業(株)福岡支店
- 社会福祉法人
- 福岡ひまわりの里
- 大成印刷(株)
- (株)ホームケアサービス
- 能古映画サークル
- (株)岩室商会
- 特別養護老人ホーム
- なごみの里
- エームサービス(株)
- (株)センタービジネス
- (有)トータルサポート
- コーポレーション
- 社福多々良福祉会
- (株)福砂屋

〔協賛会員〕

- 松本盛二 ③
- 南 誠次郎 ⑤
- 中山 重夫 ⑩
- 菅 直登 ⑧
- 早船 正夫 ⑮
- 奥村 宏直 ⑦
- 笠井 徳三 ⑤
- 安陪 光正 ⑦
- 亀井 准輔 ⑯
- 石橋 親一 ⑫
- 木原 敬吉 ⑧
- 坂田 貞治 ⑨
- 原田 國雄 ⑦
- 森光 英子 ⑧
- 永井 功 ⑦
- 結方 益男 ⑦
- 山本 稔 ③
- 田中 貞輝 ③
- 武内 隆恭 ②
- 白水 義晴 ⑧
- 石野智恵子 ⑮
- 翠川 文子 ⑪
- 多々羅節子 ⑭
- 熊谷 豪三 ⑤
- 有江 勉 ①
- 山崎 拓 ①
- 七熊 太郎 ⑦
- 西喜 代松 ⑥
- 片桐 寛子 ⑦
- 西村 俊隆 ⑥
- 明石 散人 ⑥
- 矢部 俊幸 ③
- 上原 孝正 ③
- 早船 俊一 ③
- 西方 真司 ③
- 亀井 千秋 ③
- 土生 信子 ①
- 藤井 鉄夫 ①
- 伊藤 茂 ⑪
- 水戸 和夫 ⑥
- 岡部六弥太 ⑩
- 岡部六弥太 ⑩
- 星野万里子 ⑧
- 吉村 雪江 ⑧
- 安松 勇一 ⑪
- 上田 良一 ⑦
- 高田 浩二 ⑨
- 桑野 次男 ⑧
- 藤木 充子 ⑫
- 行成 静子 ⑫
- 片岡 洋一 ⑮
- 石川 文之 ⑧
- 都筑 久馬 ⑦
- 横山 智一 ⑧
- 古賀 清子 ⑩
- 西宮 集 ⑦
- 宮崎 政憲 ⑪
- 岡本 金蔵 ⑦
- 三宅 碧子 ⑮
- 林 十九楼 ⑬
- 宮 徹男 ⑮
- 安永 友儀 ⑨
- 織田嘉代治 ⑥
- 上田 博 ⑭
- 鶴田スミ子 ⑦
- 塚本美和子 ⑥
- 伊藤康彦 ④
- 寺岡 秀實 ④
- 原田 種美 ⑤
- 奥田 稔 ⑦
- 石橋 清助 ⑬
- 井上 敏枝 ⑤
- 隈久 清次 ⑦
- 吉富とぎ代 ⑤
- 大山宇一 ⑥
- 川島 政志 ⑩
- 岸 洋子 ⑮
- 久芳 正隆 ⑨
- 半田 耕典 ⑥
- 武藤 瑞こ ④

〔友の会会員〕

- 莊山 雅敏 ⑥
- 吉田 洋一 ⑤
- 永岡喜代太 ⑫
- 神戸 純子 ④
- 渡辺美津子 ⑤
- 山田 博子 ⑪
- 佐藤 泰弘 ⑥
- 飯田 静子 ④
- 前田 聡 ⑤
- 神戸 晃 ③
- 田里 朝男 ⑦
- 池田 修三 ⑩
- 吉田 一郎 ③
- 小川 正幸 ②
- 岩谷 正子 ③
- 権藤 菊朗 ②
- 増田 義哉 ④
- 宮崎熊太郎 ⑨
- 土井 千草 ①
- 松坂 洋昌 ④
- 稲永 博通 ④
- 鹿毛 博通 ④
- 古川 映子 ⑩
- 古川 映子 ⑩
- 衛藤 俊規 ⑦
- 伊藤 泰輔 ⑧
- 西村 達頭 ⑧
- 執行 敏彦 ④
- 渡辺千代子 ②
- 後藤 和子 ⑦
- 脇山 浦一郎 ⑪
- 川浪由紀子 ⑪
- 川田 啓治 ③
- 足達 輔治 ⑤
- 中村ひろえ ⑨
- 古賀 謙二 ⑦
- 野尻 敬子 ⑦
- 大野 幸治 ⑨
- 柳田 正己 ⑨
- 青木良之助 ⑦
- 神崎憲五郎 ⑦
- 金子 柳水 ⑨
- 佐野 至 ⑧
- 宮手 親栄 ⑩
- 宮崎 春夫 ⑩
- 鬼丸 碧山 ⑦

かったのです。

このように野山では、公園や街路で通用した樹種判定力... 樹種判定を行なう力を身につけなければならぬ。そう考

わりには自然度の高い植生は少ないかもしれない。なにより、一般的にはマイナス要因と考えられがちな、小島の環

さて、前置きがずいぶん長くなりました。今回は本題である能古島の樹木についてレポートいたします。

クスドイゲ

クスドイゲ属 (常緑低木〜高木)

暖地の沿海地に生え、高さ3〜5メートルの低木状のものが多...

「日本の樹木 (山と溪谷社)」

- 山崎ツツ子 片桐陽一 吉開史朗 香立スミエ 藤瀬三枝子 野見山実 頃末隆英 友原静生 森口智子 山本信行 尾澤健 井上陽一 寿美電気 矢野鈴子 藤崎和子 宮崎正直 原田雄平 山本勲 高根襄 柴田優美 横田澄江 山口武子 石橋順子 西原正俊 松熊友彦 小川敦誠 木野敦代 丸山敏子 丸山敏子 江崎小二郎 佐藤洋子 的野彰 高田久美子 森山純子 小山保彦 小山勝子 側嶋眞智子 筑紫味子 小原俊一 小原俊一 江原幸夫 中山隆史

能古博物館ご案内

開館 9:30~17:00 (入館16:30まで) 休館日 12月1日~2月末日の冬季のみ休館 入館料 大人400円・高校生以下無料

※新規の御加入(先号以後、平成17年11月1日現在)を、記載いたしておりますので、何卒ご芳名をご確認ください。ありがとうございました。 自然と文化の小天地創造 能古博物館の会



南冥と鎮西の漢詩人(一)

南冥と頼春水

神戸女子大学名誉教授

林田愼之助

亀井南冥は物徂徠ぶつそくらいのながれをくむ九州随一の巨儒であった。一介の医師の家から身をおこし、壮年におよんで筑前黒田藩の藩黌教授にまでなったが、途中で寛政異学の禁に遭い、その地位を追われて悲憤の生涯をした人物であった。

寛政異学の禁は、朱子学の謹直主義で画一的に国論人心の統一をはかったもので、はやくも田沼時代にゆるみかけた幕藩体制の夕方を締めなおすことが、本来のねらいであった。そのため、朱子学以外の漢学派を異端とみなして、これに弾圧を加え、思想表現の自由を奪ったので、全国の儒者とその子弟のほとんどが、朱子学に転向した。いつの世にも権力の側にある禁令はいったんそれが実施の段階にはいると、かならずその正当性

を証だてる犠牲けいせいを必要とした。

江戸の亀田鵬斎、筑前の亀井南冥を廃黜に追いこんだ異学の禁も、その例外ではなかった。朱子学の禁圧に反対しつづけて学問的節操をまげることのなかった鵬斎は、糾弾の嵐のなかで旗本の子弟一千人を数えた門下生のことごとくを失い、その日の生活にも窮するありさまとなった。南冥もまた筑前藩にあつて古学を標榜して変えず、なお朱子学派の藩黌を圧倒する勢力を張っていただけに、禁令実施後二年を経て朱子学派の指弾を受け、ついに南冥の主宰する藩黌西館の廃校にまで事件は発展した。

南冥といた鵬斎といた、その雅号はいずれもこざかしい世間智の世界を尻目に、南冥のかなたまで自在に天空をは

ばたく大鵬の飛翔を描いた『莊子』逍遙遊篇の寓話にねざしたものであった。この二人の儒者が異学の禁の網羅にとりこまれて、雄大な翼をそがれることになったのは、単なる偶然の暗合ではあるまい。そこには時代の趨勢とそれに角逐する強烈な個性が生みだした避けがたい悲劇の必然性が存在していた。

寛政異学の禁の立案者は頼山陽の父春水であった。春水は芸州竹原の出で、儒官となつた浅野藩を朱子学で統一したのちに、当時幕閣の実力者松平定信に接近して国論人心をひきしめる必要性を説き、そのために朱子学を正学として異端の学の禁圧もやむなしと提案した。定信は春水の提案をいれて、いままで単に林家の私学にすぎなかつた昌平黌を官学にして、そこに春水の友人で、のちに「寛政の三博士」と称せられた朱子学の柴野栗山、尾藤二州、古賀精里を送りこみ、名実ともに寛

政異学の禁の体制をととのえた。



頼春水肖像画

この頼春水と亀井南冥はかつて青春の日に浪華の春水の寓居で、混沌社の葛子琴、小石元俊とともに酒盃をかわし、詩を唱和した間柄であったことはあまり知られていない。

南冥はその字を道載みちのり、名を魯と称したが、晩年不遇の時期には、信天翁、狂念居士の号を用いた。寛保三年(一七四三)八月十五日に、かねてから徂徠学に傾倒していた儒医聴因の長子として、筑前博多の郊外早良郡姪めいの浜村はまむらに生まれた。おなじ筑前が生んだ朱子学の巨星貝原益軒の没後十五年のことであった。

儒者としての南冥は『論語

語由』『春秋左伝考義』の名著をのこしたが、本質的な意味では「儒侠」とよばれるにふさわしい俠骨の誇り高い詩人であった。

南冥の詩歴は、物徂徠の友人で、服部南郭と護園派の詩名を東西に分った肥前蓮池の僧大潮に詩の添削を請うたときにはじまった。ときに大潮は八十歳の高齢であったが、僅かに十四歳の南冥の詩をみて「神童能く賦を作る」と賞賛した。



大潮元皓像

そののち長崎に遊学した南冥は、高陽谷のもとで詩学の研鑽につとめた。陽谷は当時清国の高名な詩人沈徳潜と海を越えて詩を応酬したことで

海内の人士の羨望を集めていた。このとき南冥は「瓊浦卿」と題する漢詩集を編むが、今日その写本の伝わるをみない。宝暦十二年、二十歳で京撰の間に遊学した南冥は浪華で儒医両面の私塾をいとなんでいた父の知人永富独嘯庵に師事。独嘯庵は長門赤間ヶ関の人で、字を朝陽といい、萩の山縣周南に徂徠学を、京の山脇東洋に古医方を学んだ。南冥が応接したときは二十九歳の若き教師で、塾生にさかんに経世の学を吹き込んだという。この塾で知り合ったのが小石元俊である。元俊は若狭小浜の出で、字は有素、大愚と号し、南冥とおなじく儒医を志していた。後年、元俊は蘭学を学び、前野良沢、杉田玄白と交わって『解体新書』にその名をつらねた。広瀬淡窓の「儒林評」はこの元俊がその頃の南冥にふれて「道載ヲ当時ノ京師ノ儒者ナドト同様ニ思フ可カラズ。実ニ猛虎ノ如クナル者ナリ」と語った

ことを伝えている。



小石元俊肖像画

そのとき浪華の地で南冥は片山北海が主宰していた混沌社の詩人たちと詩の唱和を楽しんだ。高陽谷が長崎でその詩才をたたえた葛子琴がその同人であったので、子琴の紹介によるものであった。混沌社の詩風はどちらかといえば繊細巧緻な宋詩の趣きがあり、唐詩あたりの気格に忠実であった南冥にはあまりなじめなかつたようである。晩年「我昔篇」で往時をしのんだ南冥は葛子琴を含む京撰の地の詩は「艱深繊巧にして大いに体格を傷う」と評しているからである。猛虎のごとき気性に

当時の南冥の目に、上方の粹がった詩風が繊弱に映ったとしてもおかしくはなかった。それでもこの異質な詩的風土は南冥の漢詩練磨にずいぶんこやしになったはずである。



葛子琴刻印

一年ほどの京撰の地の遊学から南冥が帰ってきたばかりの宝暦十三年（一七六三）の秋、將軍家重の喪を弔うために東航中の韓国の修好通信使が筑前藍島の迎賓館にしばらく滞留していた。このとき南冥は筑前藩の儒官に付き添い、韓使随員の書記官と詩を応酬し、筆談する機会をつかんでいる。その内容は逐一日録のかたちで「泱泱余響」上下二巻にまとめられているが、そ

能古博物館だより

のなかに「席上金退石の病に臥すを慰む」と題した七絶がある。

前の一角に逼塞することができずに、私塾は父にまかせ、長崎、熊本、薩摩としきりに

異郷抱病枕難安
竹壁梅窓鳥帽寒
従是東行君自愛
烟霞到处足加餐

異郷に病を抱き 枕安んじ難し
竹壁梅窓 鳥帽寒し
是れより東行す 君自愛せよ
烟霞到る処 加餐するに足れり

その後藍島から東行の途についた韓使一行はその立寄つたさきさきで、南冥の熱心で懇切であった応接の態度を賞揚したおかげで、南冥の名は東国にまで伝えられた。いまだ無名の一儒生にすぎなかつた南冥はこのとき二十一歳であつた。

遠遊し、知見を広めることにつとめている。それでもなお遠遊の思いを断ちがたく、一児昭陽をもうけた翌々年に、京撰の地へ旅立つたのである。さて南冥の評伝には、大正二年にその百回忌を記念して出版された高野江鼎氏の『儒俠亀井南冥』がある。そこに

南冥がふたたび京撰の地を踏むことになるのは、それから十四年を経過した安永六年(二七七七)の初春のことであつた。その間彼は父聴因とともに私塾蜚英館をおこし、儒学を講じたが、思うように門下生は集まらなかつた。経世の志をひめていた南冥は筑

「この間東遊して諸侯の門を叩くとあれども、其の事跡の証すべきものあるをみず」とあり、さらに「頼春水も交りありしを伝うれども、詩文の上に見るものなきは遺憾なり」と記されているが、実は高野氏未見の資料が慶応大学斯道文庫に所蔵されていた。

「矢音艸」と題する写本一冊がそれである。その序によると「丁酉の春、北筑の亀井魯道哉、南豊の清原蔵伯行は同行して京に遊ぶ。二月十一日路に上り、四月六日乃ち還る。凡そ海陸の途中に作る所の詩篇は知友の唱和に暨べば、併録して一冊となし、矢音艸と曰う」とある。その知友唱和の詩迹をたどると、南冥は博多から小倉、長府と陸路をすすみ、徳山では旧知の島田藍泉、青木和卿と詩を応酬している。ついで岩国に入った南冥は聞きしにまさる錦帯橋の美しさにすっかり魅せられたようすで、どこにもまして数多くの詩篇をこの橋の賞美にささげている。そのうちの一首。

橋影盤空卷彩霓
緋桃翠柳水東西
人生百載須臾事
願我携家此地棲

橋影空に盤かまり 彩霓を巻く
緋桃翠柳 水に東西す
人生百載 須臾の事
願くば我は家を携えて此の地に棲まん

南冥はこの景勝の地にすみつきたいと本気で考えたのであろう。錦帯橋をあとに南冥は敵島に遊び、海路を利用して音戸の瀬戸にさしかかり、平清盛ゆかりの歴史をしのんで「音戸瀬」と題する雄勁な五言古詩を作った。さらに播州加古川の宿では偶然にも『日本詩選』の撰者江村北海と出会い、これに詩を贈る一幕もあつた。こうして明石、須磨を経て浪華に入った南冥が葛子琴、小石元俊と再会をはたしたのが、実はそのとき芸州から混沌社にきて詩を学んでいた頼春水の寓居「春水軒」であつた。

「矢音卿」にのこる葛子琴の「春水軒にて亀井南冥に贈る」という詩には、「十六年前蓋し初めて傾け、荷衣蓬首、重ねて逢迎す。一樽の春水、桃花の色、孰与か兼葭の白露と清からん」と唱い、春水は「南冥、崑岡（清原氏）の過訪に謝す」と題する七絶をとどめ、「二雙の白壁、自ら玲瓏たり、来り照す蕭然たる環堵の中。試みに問わん客何処より来り、神交幾歳にして東西に限てん」と歌っている。荷衣蓬首と隠

頼春水肖像画

(財) 頼山陽記念文化財団蔵
大潮元皓像 神戸市立博物館蔵
小石元俊肖像画

「人物叢書43小石元俊」から
山本四郎著 (株) 吉川弘文館発行
葛子琴刻印

大阪大学 (中井家資料) 蔵
画像は徳徳堂センター提供

この春水がのちに寛政異学の禁を実質的に画策して、ついに南冥を悲惨な廃黜にまで追いこむことになろうとは、そこに居合わせた者の誰もが想像だにしなかったであろう。

※次号は「南冥と原古処」です。



錦帯橋図 (和田石英筆) 岩国徴古館 蔵

地震被災修復工事

御寄付のお願い

去る、三月二十日の福岡県西方沖地震発生、またその後続いた度重なる余震によって、福岡市指定文化財である「能古焼古窯跡」に大変大きな被害を被りました。小さな亀裂が無数に入り、余震のたびに、それらがつながって大きな亀裂となり、気が付かないほどの微弱な余震で突然窯跡が崩れ落ちるといふ現象を幾度も繰り返し、現況は無残です。



崩落した古窯跡

この古窯は江戸時代（一七六〇年代）に開窯され、有田焼系の磁器と高取焼系の陶器を焼成した窯で、福岡市内で唯一残された古窯跡です。

陶磁器の研究、制作工程、窯の変遷を研究する上で貴重な文化遺産であり、また能古島の人々にとつても、かけがえのない大切な宝であります。修復には福岡市のお力添えを頂いても、なおかつ多大な費用が必要であり、皆様の御力をお借り致したく、ぜひ御寄付をお願い申し上げます。

振込先 郵便振替

0173019160970

財団法人 能古博物館
一口千円 (何口でも可)

事務局だより

今年も十二月から二月末日迄冬季休館となります。地震後のいろいろな後始末も多く、休館中も外、内作業が続きます。いつも皆様に助けられて年が暮れ、いつも皆様に励まされて三月オープンとなります。ありがとうございます。能古島の榎の葉が真赤に紅葉しました。ぜひ当館にお立ち寄り下さい。

第8回 能古の風フォトコンクール

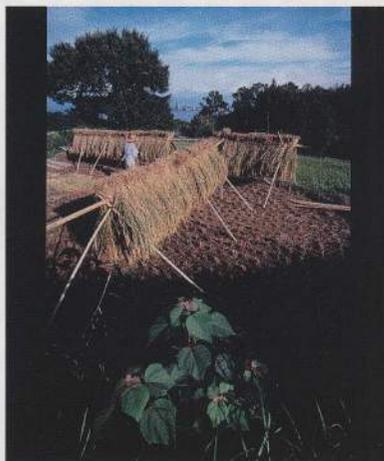
入賞者発表

準グランプリ賞



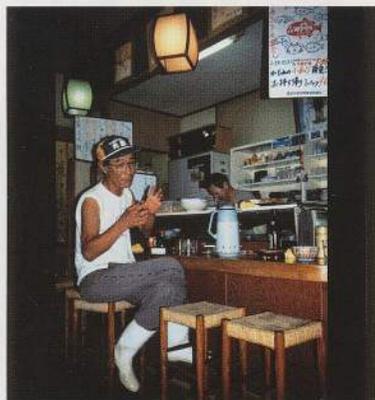
「野良仕事」 山口 勝久氏

グランプリ賞



「刈入れの頃」 中山 隆史氏

特別賞



「海を語る」 友野 美保子氏

能古島賞



「夏のひととき」 瀬野 雄市氏

第8回 能古の風フォトコンクール 入賞者

グランプリ賞	五万円	中山 隆史 様	福岡市南区井尻
準グランプリ賞	三万円	山口 勝久 様	福岡市西区小戸
特別賞	二万円	友野 美保子 様	八女郡上陽町北川内
能古島賞	一万円	瀬野 雄市 様	福岡市博多区東光寺町
入選	一万円	高鷹 春一 様	福岡市早良区原
入選	一万円	野村 武 様	福岡市西区石丸
入選	一万円	田 淵 志保 様	福岡市中央区赤坂
入選	一万円	三 苫 祐子 様	福岡市西区能古
入選	一万円	山本 光玄 様	福岡市中央区大手門

第8回能古の風フォトコンクールも皆様のおかげで無事終了致しました。有難うございます。応募者全員の作品を11月30日迄展示致しております。どうぞ御来館下さい。

第9回能古の風フォトコンクールから審査方法が変わります。幅広く、より多くの島の人々に参加していただきます。ご期待ください。尚、応募要項は変わりません。ふるって御応募下さい。